

蔵本分館の現状と課題

—— 分館長就任にあたって ——

石村 和 敬

はじめに

この8月1日付で附属図書館蔵本分館長を拝命しました。分館長をお引き受けするにあたり、何人かの方からお祝いの言葉を頂戴した時には、これは良い役職らしいと思ったのですが、別の方からは「御苦労なことです」と気の毒そうに言われ、一体どちらであろうとやや不安にかられておりました。就任の数日前に前分館長の上村先生からこれまでの経過について説明をいただき、分館長に就任した当日には、寺田図書館長とお会いして、全体的な問題点、これからの方針の概略を少しだけうかがいました。その後、分館の職員の方々から、分館長の職務内容、分館の抱えるさまざまな問題の説明を受け、さらに本館の中野課長さんからは学術審議会の

建議書、自己点検の冊子など5冊ほどの資料を渡されました。これは「御苦労」というほうが当たりらしいと感じ始めたところへ、何人もの先生方や学生諸君からあれこれの注文を出されるに至り、「御苦労」を確信しました。

蔵本分館の利用状況

蔵本分館の平成8年度のサービス対象者数は教職員1,545人、学生（院生を含む）2,388人の計3,933人（表1）となっています。また、平成8年度の開館状況を見ると（表2）、入館者数は教職員40,528人、学生109,881人、学外117人の計150,526人となっており、平成7年に比べてやや減っているようですが、数字そのものを本館と比べてみますと、概して蔵本分館の利用率は

高いということがいえると思います。特にサービス対象者数で入館者数を割った一人当たりの平均入館回数を比べてみると、蔵本分館における学生の利用率（約46回）が最も高いということがわかります。また、年間の開館日数が286日ですから、一人の学生が1週間に1度は必ず分館に通っているという計算になります。この数字の妥当性はよくわかりませんが、蔵本分館の増改築がすんで、学生諸君の学習の場所としてかなり快適なものになっていることは疑いありません。教官層の利用率は分館も本館も学生に比べて高くありません。私個人の場合でいいますと、学内LANの整備とCD-ROMサーバーシステムの導入によって研究室から必要な情報にアクセスできるようになったため、図書館に足を運ぶ頻度は確実に減りました。恐らく教官の方の多くも同じと推測できます。

表1 サービス対象者数

館名	年度	学 生		教職員	合 計
		学 部 学生等	院 生		
本 館	7	4,666	576	650	5,892
	8	4,439	587	674	5,700
蔵 本 分 館	7	1,798	321	1,547	3,666
	8	2,033	355	1,545	3,933

表2 開館状況

館名	年 間 開 館				年 間 入 館 者 数					最 多 入 館 者 数	
	年度	総日数	土 曜 開 館	時間外 開 館	学 生	教 職 員	学 外 者	合 計	1 日 平 均		
本 館	7	290	47	863	172,815	8,178	278	181,271	625	1,915	9.25
	8	287	46	915	178,519	8,450	255	187,224	652	1,906	9.24
蔵 本 分 館	7	293	49	894	134,406	51,836	137	186,379	636	1,446	2.13
	8	286	42	913	109,881	40,528	117	150,526	526	1,023	2.12

購読雑誌について

現在分館が抱えている問題の最大のものは購読雑誌の価格の高騰でしょう。各部局とも予算は限られていますから、勢い購読雑誌を削減して対応するということになります。しかし、雑誌数が減ることはそのまま図書館のサービス機能の低下を意味します。さらに雑誌数が減るとこの分は学外文献へと流れることになり、結果として研究者にも担当職員にも手間と時間のストレスがかかることとなり、よいことは一つもありません。しかし、ただ嘆いているだけでは仕方ありませんから、これを機会に購読雑誌の見直しを進め、分館全体として質を高めるよう工夫する必要があると思います。その一方で、図書館間の相互協力による文献複写事務の一層の効率化がはかられなくてはならないとも考えます。参考までに学外への文献複写の依頼数や学外からの受託（受付）件数を表3にあげました。蔵本分館における件数の多さがおわかりになると思います。

分館のスペース

分館の抱えるもう一つの問題はスペースです。分館は平成6年度の概算要求で増改築が行われ閲覧室や書庫のスペース不足などが大幅に改善されました。しかし、図書館の宿命として

表3 文献複写（相互協力）

館名	年度	学内		国内				国外	合計	
		受付	依頼	大学図書館		その他			受付	依頼
				受付	依頼	受付	依頼	依頼		
本館	7	63	613	2,656	2,523	53	60	10	2,772	3,206
	8	96	569	1,809	2,282	61	154	30	1,966	3,035
蔵本分館	7	613	63	7,265	5,032	104	10	49	7,982	5,154
	8	569	96	7,374	5,149	175	34	14	8,118	5,293

蔵書は増え続けますから、いずれはまたスペースの不足の問題が起こってきます。以前ある大学の図書館でスペース不足が深刻になり、対策を検討していた折りに、若い人が「古い雑誌を捨てる」ことを主張し、居並ぶ人々を啞然とさせたことがありました。もちろんこれは否決されましたが、数年前、同様のことを別の大学の友人から聞いて、この類の「古い」=「不要」という短絡的な発想は繰り返し出てくるものだというのを再確認しました。幸い、この蔵本分館ではそのような意見が出てくることはありませんが、スペースの問題は依然として残っています。理想を言えば、この先数十年を見越しての十分なスペースの確保ということになると思いますが、国の財政の危機的状況からこれは望むべくもありません。結局は今のスペースでしばらくの間なんとかしのぐということになります。空間の有効利用を全員で考えていかななくてはなりません。また、閲覧室の学生諸君をみると図書館の本を見るためにそこにいるというよりは、単なる勉強の場として利用しているということのほうが多いように見受けられます。閲覧室の使用方法について学生諸君にもよく考えて頂く必要があるでしょう。ただしこれは、現在の大学に、学生が小人数で集まって勉強のできる場所が絶対的に不足しているということが根底にありますから、図書館だけでなく大学全体で考えねばならないことでもあります。

開館時間について

多くの研究者の方が図書館に望んでいることに「24時間開館」があると思います。このことは、先に行われた「図書館利用に関するアンケート調査」の結果（「すだち」No.53、1996年1月）にも明らかです。欧米の大学の、特に医科系の図書館では24時間開館が普通ですから、彼我の差には愕然とさせられるものがあります。ただこれにしろ、また、上にあげた問題にしろすべてお金が十分あればすべて解決する問題で、結局はお金がないからどれも解決のしようがないというのが実状です。ただし、現在の開館時間は専ら学生に合わせてあるように見え、研究者に対する配慮がやや不足しているのではないかという感想を、私自身持っていました。この点は職員の方々ともよくご相談し何とか工夫してみたいと考えています。

おわりに

2年の任期というのが長いのか短いのか、まだよくわかりませんが、ともあれ、利用者の皆さんにとって少しでも快適な図書館を目指して微力を尽くしてみたいと考えています。御鞭撻御助言を頂ければ幸いです。

（いしむら・かずのり 附属図書館蔵本分館長）

平成9年度附属図書館事業計画について

坂上 光明

附属図書館では、平成9年度第2回附属図書館運営委員会（6月9日開催）で承認された今年度の事業計画に基づき、図書館の整備・改善事業を進めています。ここではそれぞれの事項について、これまでの取り組み（別表「附属図書館整備・改善の歩み」参照）や全国的な動向にも触れながら簡単にご説明します。

1 附属図書館将来計画の作成

附属図書館運営委員会の下に将来計画委員会を設置し、昨年3月に刊行された自己点検・評価報告書（『大学図書館と学術情報サービスの発展をめざして』）の中で指摘されている本学図書館の現状と問題点、今後の改善の方向などを踏まえて、図書館の施設、組織、業務、サービスを含む全体的な将来計画をとりまとめることになりました。とくに、現在、施設整備委員会の中で南常三島キャンパス総合科学部地区の施設整備計画の検討が進められていることから、附属図書館としても、本館（常三島地区）の増築または新営を含む長期的な施設整備計画を早急にとりまとめ、全学的なキャンパス再開発計画の中に図書館の将来計画が適切に反映されるように努力する必要があります。

2 電子図書館的機能の充実・強化

コンピュータと通信ネットワークの急速な発達により、従来は図書、雑誌の形態のみで流通していた学術情報の多くがCD-ROMやインターネット上の情報資源のような電子媒体でも提供されるようになりました。このような電子媒体の学術情報を収集、提供する図書館機能は電

子図書館的機能と呼ばれ、この機能を有効に活用することにより図書館サービスの可能性を時間的にも空間的にも大幅に拡大できることから、全国の大学図書館が競ってその充実・強化に取り組んでいます。

本学でも、OPAC(オンライン利用者目録)やMEDLINE、Current Contentsなどの2次情報データベースのネットワーク検索サービスを既の実施していますが、今年度はさらに、Chemical Abstractsのデータベースサービスを開始すると共に、これらの情報サービスの統合的な窓口となるwwwの図書館ホームページを開設します。

また、外部機関が作成した既成の電子情報を導入するだけでなく、近い将来、当館が所蔵する貴重な資料（阿波国絵図など）を電子媒体に変換し、画像データベースとしてネットワークを通じて学内外に公開することをめざします。

さらに、図書館内にマルチメディア・パソコンコーナーを設置し、当館の情報サービスはもちろん、学内LANやインターネット上のさまざまな情報資源を利用できる環境を今年度内に整備する予定です。

3 基本的な図書館資料の整備・充実

情報の電子化が急速に進行するとしても、大学図書館の基本的な知的財産が従来の図書、雑誌の形態で存続することは変わりません。本学の教育、研究プログラムに密着した各分野の基本的な図書、雑誌を系統的に収集するための試みとして、常三島地区では今年度から、図書購入予算の一部を「基本図書購入費」に当て、教育研究上必要不可欠であるにも関わらず、高額

のため研究室等の予算では購入しにくい基本的な図書資料の整備を図ることになりました。

また、蔵本地区では、外国雑誌の急速な値上げのため、従来の購入雑誌を継続することが困難になっており、教育研究に不可欠な学術雑誌の見直しを行うと同時に、これらを安定的に継続購入するための経費、予算のあり方について抜本的な検討に取り組むことが求められています。

4 資料へのアクセスの改善

常三島、蔵本の両図書館をはじめ学内に所蔵されているすべての図書資料を容易に検索でき利用できる体制を整備することが重要です。図書館のOPAC（オンライン利用者用目録）は、従来のtelnet版に加えて本年2月からwwwブラウザによるサービスが開始されたことにより、学内のどこからでも簡単に利用できるようになりましたが、今後は目録データの充実とユーザーインターフェイスの一層の改善、検索端末の増設などが課題となります。

また、本年1月から本館2階（新館）に学術雑誌閲覧室が設置され、常三島地区の研究室等で購入されているものを含めて、260種以上の学術雑誌が図書館内で自由に閲覧できるようになったことは、学術雑誌の共同利用という意味から大きな前進といえます。

今年度以降も学術雑誌閲覧室への集中配置雑誌が維持、拡大されるようご協力をお願いします。

5 サービスの改善

夜間開館時間の延長への要望にこたえて、本館（常三島地区）では既に授業期間中は午後9時までの夜間開館を実施していますが、本年10月からは蔵本分館でも試験期に限らず常時午後9時まで開館時間を延長することになりました（但し休業期間中は除く）。

また、利用者への広報サービスの改善の一環として、今年度から従来の図書館報『すだち』に加えて不定期の速報版 Library Announcementを発行し、図書館利用上のトピックについてタイムリーにお知らせします。

6 利用環境の整備・改善

老朽化した机、いす、カウンター等の更新を図ると共に、館内の資料配置、スペース利用計画等を見直し、より快適で利用しやすい環境の整備をめざします。蔵本分館については、この夏、年来の要望に応じて、北側外国雑誌書庫内に冷房設備を設置したほか、2階図書閲覧室の照明の改善を今年度中に実施する予定です。また、地震、火災等への防災対策や身体に障害を持つ利用者のための施設、設備の改善に向けて再点検を実施します。

7 業務の改善（自動化・省力化）

図書館業務の自動化、省力化を図るため、コンピュータによる業務処理システムをさらに改善し、図書、雑誌等の購入・整理事務の迅速化と利用者サービスの一層の改善に努めています。常三島地区では、研究室への特別貸出図書の引渡し通知や、学外への文献複写申込みなどを電子メールで迅速に処理するサービスを実施しています。

8 その他

学術情報の現状と図書館の役割について学内外の理解と関心を高めるため、この分野の学識経験者を招いて「学術情報に関する講演会」を開催します。

（さかがみ・みつあき 附属図書館事務部長）



附属図書館整備・改善の歩み

区 分	実 施 経 過	
	～昭和56年度	昭和57年度～平成3年度
組織・機構	図書館組織一元化（昭27） 附属図書館運営委員会設置（昭33） 本館事務組織改組（昭34, 43, 55） 蔵本分館運営委員会設置（昭43） 常三島分館を本館に統合（昭43） 蔵本分館事務組織改組（昭53, 55, 58）	事務組織改組（平2） 部課制設置（平3） 情報管理課図書館専門員設置（平3）
図 書 館	総合 夜間開館開始（昭37） 図書館報創刊（昭39） ML ニュース創刊（分館：昭41） 附属図書館概要刊行（本館：昭50） 図書館利用案内刊行（本館：昭51）	図書館報「すだち」に名称変更（昭63）
	学習 指定図書制度実施（昭43）	
	研究 文献複写サービス開始（本館：昭34, 分館：昭26） テレックス導入（分館：昭45） 情報検索サービス開始 JOIS（分館：昭56） DIALOG（本館・分館：昭57）	情報検索サービス開始 JOIS（本館：平2） 大型コレクション設備（平3）
	保存 古文獻保存（補修・マイクロ化）（昭55）	
機 能		図書貸出オンライン化（昭59） 図書館専用電算機導入（平2） 学術情報センター接続（平2） OPAC 運用開始（平3）
事 業	日本近代文学展（本館：昭53） 日本現代地図展（本館：昭54） 医学・薬学古書文献展（分館：昭55） 近世阿波の史料展（本館：昭56）	地震展（本館：昭57） 復刻本の展覧（本館：昭60） ライフサイエンス関係文献解説集（分館：昭61） 郷土資料目録（本館：平1） 泉山文庫目録改訂版（本館：平2）
施設・設備	蔵本分館書庫新築（昭37） 蔵本分館事務室新築（昭38） 本館新営（昭46） 本館書庫増設（昭53） 蔵本分館増築（昭54）	本館改築（昭60） 蔵本分館 BDS 設置（昭61）
要員研修	大学図書館職員長期研修受講（～昭56） 6名	学術センターシンポジウム（昭60～61） 3名 図書館職員等著作権実務講習会（昭58～平1） 9名 目録システム担当要員養成研修（平1～2） 3名 大学図書館職員長期研修受講（平2） 1名 総合目録データベース実務研修（平3） 1名
規定・その他		本館利用細則取扱要領（昭59実施） 蔵本分館利用細則取扱要領（昭62実施） 受入資料の取扱区分及び基準（昭63実施） 寄贈図書受入取扱要領（昭63決定） 資料不用決定取扱基準（平1決定）

実 施 経 過 平成4年度～平成8年度	今 後 の 課 題
附属図書館事務組織改組（平4） 館報編集委員会（平6） 附属図書館図書選定委員会（平6） 蔵本分館図書選定委員会（平8）	附属図書館将来計画検討委員会の設置
土曜開館実施（平4） 英文利用案内刊行（平5） ML ニュースを速報版に変更（平6） 学外者用利用案内刊行（平6） 本館夜間開館時間延長（平6） 自己点検評価報告書刊行（平7） 蔵本分館試験期夜間開館時間延長（平7）	図書館将来計画の策定 本館収書計画の策定 インターネットを介した広報活動の推進 夜間開館の通年延長（分館） すだち速報版（Library Announcement）の発行 館報の刷新
共通教育選書計画策定（平4）	学生用図書購入計画見直し
ILL システムによるサービス開始（平4） ファクシミリ文献複写サービス開始（平4） 大型コレクション整備（平5、7） ILL システムによるBLDSC サービス開始（平6） 自然科学系特別図書整備（平7）	学術雑誌共同利用の推進 共同利用研究資料の整備 大型コレクションの整備 自然科学系特別図書の整備 電子体二次資料の充実
CD-ROM によるサービス開始（平5） CD-ROM ネットワークサービス開始（平6） 図書館専用電算機の更新（平6） UNIX 版 OPAC (telnet) 運用開始（平6） UNIX 版 CD-ROM サーバシステム (ERL) 導入（平7） 電子メールによる ILL 申込受付（平7） 電子掲示板設置（平7） UNIX 版図書館トータルシステム導入（平8） www ブラウザによる OPAC 運用開始（平8）	収蔵スペースの確保 貴重資料の電子化 電子メディア利用指導の強化 OPAC データの整備 CA サーバシステムの導入 図書館ホームページの開設 電子掲示板の活用
学術情報センター地域講習会開催：目録システム（平4～5） 学術情報センター地域講習会開催：情報検索システム （平5～6） 国立大学図書館協議会総会開催（平5）	
本館 BDS 設置（平4） 情報検索コーナー設置（平5） 留学生資料コーナー設置（平5） 身障者用設備の整備（平6） 蔵本分館増改築（平6） 蔵本分館電動集密書架設置（平6） サイン整備（平7） 参考書架増設（平7） 蔵本分館 BDS 更新（平7） 学術雑誌閲覧室設置（平8） プリペイドカード方式複写機導入（平8）	マルチメディア・パソコンコーナーの設置 サービスカウンターの更新（本館） 利用者端末機の増設 自動貸出・返却装置の導入 閲覧室机・椅子等の更新 身障者用机増設
総合目録データベース実務研修（平4～5） 2名 目録システム担当要員養成研修（平4～5） 10名 大学図書館職員長期研修受講（平4～6） 2名 情報検索システム担当要員養成研修（平5～6） 23名 図書館等職員著作権実務講習会（平7） 8名	
図書選定委員会規約（平6、8制定） 蔵本分館図書選定委員会規約（平7制定）	貴重資料指定基準及び取扱要領（平9裁定）

「デジタル」としての「インターネット」

森井昌克

最近、TVのCMを見ているとその中に企業や製品のURL（言わばホームページのアドレス）を書いている場合が多いことに驚かされます。通常、TVCMに問い合わせ先電話番号やFAX番号を載せることもまれですから、いかに企業が情報提供手段としてのインターネットに期待しているかを察することができます。

TVとインターネットは非常に仲の良い関係を形作る可能性があります。TVは一方向的な情報提供です。番組は視聴者の好みを考慮するとはいえ、TV局が編成し、それに合わせて視聴者がTVのチャンネルを選択したり、見る時間を決めたりします。望むときに望む情報が得られるとは限りません。最近、通信衛星を使った衛星多チャンネルTVが注目を集めています。衛星から直接、電波を受けて、家庭でデジタル放送を受信するのです。一つの受信機で100チャンネル前後のデジタルTV放送を見ることが出来ます。この多チャンネル化によって、自分の好みの番組を見れる可能性が高くなります。ビデオオンデマンド（VOD）は、視聴者がTV局にリクエストを出して、見たい番組を放送してもらうシステムです。しかし、ラジオのリクエスト番組とは異なって、視聴者一人一人のリクエストに必ず答えなければなりません。そのためには視聴者一人一人にTV局からデータを送る広い道を確認しなければなりません。それが光ファイバと呼ばれるもので、FTTH（ファイバ・ツー・ザ・ホーム）という名称で、通信会社等が10年から20年後をメドに実現しようとしています。

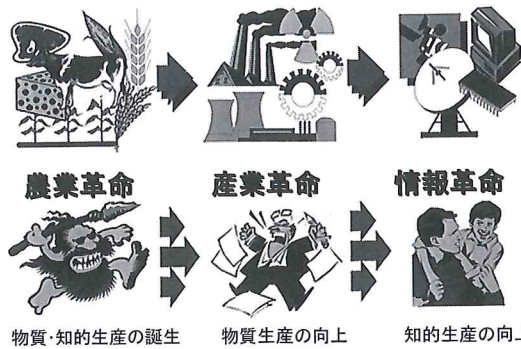
現在のインターネット上の画像を見て、「TVに比べて画像が悪すぎる、紙芝居みたいだ！」と酷評する人がいますが、TV並みの画質が必

要なのでしょうか。確かに動きの速いスポーツ等の中継はTV並みの画質が必要でしょう。逆に風景等は、静止画で十分です。その中間である品質の動画像で十分な場合もあるのではないのでしょうか。インターネットを含む現在のデジタル技術は、デジタルという言葉とは裏腹に「完全なものから一步退いて、必要十分な品質を保証するかわりに、その他のコストを格段に下げる」という一面を有します。

ではTVが生活を変えた以上に、我々の生活が「インターネット」によって変わるものなのでしょうか。たとえば、「マスコミの時代から個人の時代へ」という副題が付き、情報選択権はますます個人にとって広く行使でき、個人が積極的に発言できるようになるということが言われます。テレビや新聞といったマスコミの最大の武器は情報の流通手段の独占でしたが、それが開放されつつあるのです。インターネットを使えば誰でもがテレビ局や新聞社になれる可能性が出てきたのです。

もっと具体的に、個人の生活にとっては何が変わるのでしょうか。インターネットは何をもたらすのでしょうか。実は「時間」を生み出すのです。その時間は個人が自由に活動できる時間です。情報伝達手段としてだけ見てもインターネットは、一瞬にして広範囲に情報を伝えることができます。回覧版で広範囲に回すには時間がかかり、さらに高々、文字と絵や写真だけでした。それがインターネットを使えば、それに加えて音声や動画まで送れるのです。そして一番大きな違いは、誰でも送れるということです。回覧版として準備する時間も大幅に短縮されるのです。

人間の歴史は、いかに自由な時間を作るため

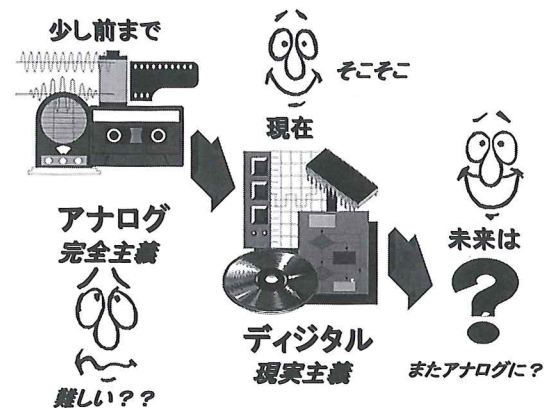


に努力したかの歴史であるという見方ができます。原始時代、食料の確保にほとんどすべての時間を取られていました。それが農耕・牧畜を行なうようになって、食料の確保以外の時間が取れるようになりました。農業革命です。この革命によって生まれた時間が、知的生産活動を生み出しました。文化の誕生です。この知的生産活動は一つの産物として、機械を生み出しました。蒸気機関の発明に始まる産業革命です。この産業革命によって、より物質の生産性が高まり、さらに人々に自由な時間が与えられました。そして、今、コンピュータとネットワークが知的生産性自体を向上させようとしています。いわゆる情報革命です。この情報革命は更なる自由な時間を我々に与えてくれることでしょう。この時間が今度は何を生み出すのか非常に興味があるところです。

さて、一方の「デジタル」です。技術用語としてのデジタルとは、連続という意味を持つアナログに対する言葉で、離散的、つまり非連続を指す言葉です。特に「信号」に対して、その量を厳密に表そうとする連続量(アナログ)か、どの程度多いか少ないかを表そうとする離散量(デジタル)かの違いとなっています。「信号」とは情報のことであると考えて下さい。情報に対するデジタルとアナログの差は、よく犯罪捜査で用いられるモンタージュ写真と似顔絵の差です。モンタージュ写真とは、目や口など、それぞれに対して限られた種類のパーツを組み合わせて、人の顔を描きます。対して似顔絵は描く人の力量によって大きく左右されますが、より正確に人の顔を描くことが可能です。

似顔絵を上手に描く人を養成するのも、探し出してくるのも大変ですが、モンタージュ写真を導入するのは簡単です。これがアナログとデジタルの差を表しているのです。

情報をアナログ的に扱うことができれば、それに超したことはありません。しかし似顔絵と同様、正確に扱うことは非常に難しいのです。アナログレコードとCDを比べた場合、音質はアナログレコードが優れていることは明白です。しかし、このアナログレコードの音質を引き出そうとすると、高性能のプレイヤーやアンプ、それに音響効果を考慮した視聴室が必要です。「そこそこ」の音質ならば、CDが非常に手軽なのです。デジタルによって、正確に扱うことをあきらめるかわりに、モンタージュ写真やCDと同様、非常に手軽に扱えることを手に入れたわけです。しかも発展した技術が、今までのアナログで扱ってきた以上の結果を得られるようになってきました。



以上の技術的な意味が転じて、「デジタル」には、わりきったとか、あっさりしたという意味にも使われるようです。しかし、「デジタル」の本質は、「そこそこ」という物の見方です。モンタージュ写真と同様、完全なものから一步退いて見ることにより、新しい可能性が見えてくるのです。いわゆる「発想の転換」がデジタルという考え方なのです。

(本原稿は朝日新聞連載「森井教授のインターネット講座」の一部を基にしました。)

(もりい・まさかつ 工学部教授)

文献検索 昨今

金崎 英二

文献検索は、研究の進行に不可欠な作業である。この作業は、従来、時間がかかる割には楽しさの少ないものであった。しかし、ここ数年、この作業にも大きな変化が起きた。以下に便利になった事と依然として不便な事とを列挙する。猶、小生は主として Current Contents (略称 CC) を参照し、たまに MEDLINE (略称 ML) を参照するという使い方をしている。

便利な事、①文献検索が研究室でできる②電子メールで文献複写請求ができる③請求した文献を受け取るときに印鑑が不用等。依然として不便な事、④1996年以前の文献検索ができない (CC) ⑤時々ホストに接続できない (ML) ⑥請求した文献のコピーを受取りに図書館に出向かなくてはならない⑦常三島キャンパス内の各研究室や図書室にある雑誌の複写はしてもらえない等である。便利な事①～③については、関係の皆様方に只々感謝有るのみ。ありがとうございます。依然として不便な事④～⑦の中で、今、一番不便なのは④と⑦である。④は、日進月歩の今日だから、Chemical Abstracts 並ではなくとも、せめて過去10年間遡ることができれば随分便利だと思う。⑦は「雑誌の集中化」と関係があり、解決は難しいかも知れない。そこで小生は、⑦に該当する文献が必要になったら、国内国外を問わず、著者に直接文献請求して別刷りを送ってもらう事にしている。しかし、この方法では余り昔の文献請求は気がひけるし、それに文献を入手する迄の時間が長い点が欠点である。

最後に一言。文献複写料金はどうして35円/枚と高いのだろうか。巻の相場はもうとっくに10円/枚以下です。

(かねざき・えいじ 工学部助教授)

ポケットにある図書館の夢を見る —— ネットワークの体験について ——

シュラーダー・ペーター

私の夢の一つは、ポケットサイズの計算機のような図書館である。これは、欲しい図書や雑誌などに全部簡単にアクセスでき、ポケットサイズで安い計算機である。その夢はすでに数年前から見ている。多分、徳島大学附属図書館のコンピュータ・ネットワークは、その夢の実現への一歩であろう。すなわち、先ず、OPAC を用いて図書館にある図書、雑誌について大切な情報を得る。更に、Current Contents にアクセスし、“mainstream science” の雑誌を調べる。もちろん、アクセスするのは私のデスクからである。それは上記の夢に近いかと思う。

ネットワークを通じて OPAC を使用することは簡単である。しかし、初めてアクセスする時に自分のソフトのオプションを設定する問題点があった。図書、雑誌を OPAC で見つけたら、それは図書館に置かれている。その中身までは見えないが、便利な情報を得ることはできる。英文の書名、著作者の名字を知っているの、英語から翻訳された和文の図書を見つけたこともある。生憎、図書館に置かれた本がすべて OPAC で見つかるわけではない。適当なソフトがあり、パスワードをもらっていただければ Current Contents は簡単にアクセスできる。そして“mainstream science” の雑誌に載った論文の題目、執筆者、梗概などが読める。キーワードの組み合わせを検索に利用して興味深い論文を検出できる。検索法をファイルに書いておき、次回また使用することができる。欲しい情報をプリントすることもできる。便利である。ただし、欠点の一つは値段であり、もう一つの欠点は、風工学者の私に関心を持った雑誌は、今年の号はアクセスできるが、それ以前の号はだめなことである。

(工学部助手)

リアルタイム

ネットワーク利用の感想

— OPAC・CD-ROM —

勢井 宏義

辻本 仁志

図書館とのネットワークを介して、私の教室ではもっぱらMEDLINEとCurrent Contentsを利用している。私の教室で行われている研究は“慢性実験”といって、生きて正常に活動している個体（実験動物やヒト）から、いろいろな生体情報（血圧や神経活動、神経伝達物質など）を記録することが主体である。たとえば、活動したり眠ったりしているラットの血圧を四六時中記録しながらそのラットの脳内に各種薬物を投与することによって血圧の調節メカニズムを探るといった具合である。私の実験計画は時としてフレキシブルで、急に新しい薬物を試してみたいくなる。はじめて使用する薬物だから、その薬物の投与濃度を知る必要がある。そんな時MEDLINEやCurrent Contentsを利用するのである。実験している部屋にはパソコンがあり、図書館のサーバに接続できる。投与する薬物に関する論文数本～十数本を検索し、その抄録に目を通すのである。この量ならば15分もあれば充分。濃度を決定し実験を続けることになる。投与後、その薬物に対する反応が観察されるが今度はその得られたデータに関して、上記検索した抄録や、新たに検索したものからその場で考察を加え推論し、その推論を展開するために必要な新たな操作（薬物）を決める。そして、その操作に必要な手順（濃度など）をまた検索して決定する。このように、実験を行いながらリアルタイムに考察・推論を展開し、実験にフィードバックさせる。こうして、実験中に生体から得られる情報も、図書館が常に更新してくれる文献情報も、同一レベルの情報として捉えることができるようになり、私の研究も少し広い視野を持てるようになった気がしている。

(せい・ひろよし 医学部講師)

私が入局した頃、ちょうど図書館に文献検索用のパソコンが設置された。当時は、検索するのに煩雑な操作が必要で、論文を調べるにもしりごみしていた記憶がある。さらに、設置されたパソコンが1台であったので、急用が入った場合など予約を取り消し、数日後の予約をとるといような事もしばしばであり、急ぐ場合などはCCを手当たり次第に調べたり、めぼしい論文にかたっぱしから目を通し、半日が経過するというような事もしばしばであった。何より図書館が開いている時間帯、つまり仕事をしている時間帯でないと検索ができないというジレンマがあった。その後、蔵本キャンパスのネットワークの整備と、Macの普及や、Windows95の登場によるユーザーインターフェースの向上により、文献検索は格段に容易なものとなった。自分の好む時間に、たとえ夜中であっても、自分の机上で検索が可能である上、時間を気にせず文献の要約等を読む事ができる。本当に便利になった。現在、MacSPIRS、WinSPIRS、WebSPIRSによりCC、MEDLINEを利用する事ができる。MacSPIRSはインストールが簡単であるが、WinSPIRSはDOSに慣れている人でないとインストールが難しいという気がする。そこで、現在はテスト公開中であるが、WebSPIRSを是非続けていただきたい。OPACはまだあまり活用できていないが、書名がわかれば、図書館に存在している図書の検索や、その貸し出し状況などが、わざわざ図書館に出かけて行かなくても分かるし、開館時間に制約を受けずに検索でき、便利である。将来、自分の机上から、学术论文やある種の図書を読む事ができるようになればさらにすばらしい。

(つじもと・ひとし 歯学部助手)

蔵本分館オリエンテーションの取り組み

吉田 敬 治

図書館ではユーザーの皆さんに図書館を有効に活用してもらうために、オリエンテーション・ガイダンス等の利用者指導を実施しています。最近では図書館の一般的な利用方法、各種資料の紹介のみならず、OPAC 検索や CD-ROM 検索の指導法の分野にまで及んでいます。本学の医学部、歯学部、薬学部、医療短大、分子酵素学研究センターの利用者をサービス対象としている蔵本分館においても、図書館利用法オリエンテーション、文献利用ガイダンスを実施しています。最近、医学図書館では全国的に利用指導サービスの新展開がみうけられます。蔵本分館においても今年度歯学部新生に対する図書館利用者ガイダンスが試行的に行われ、共通教育の授業の1コマに加えられました。今後、図書館の検索コーナーの整備とともに職員の自己研鑽に積極的に取り組んでいきたいと考えています。次に蔵本分館で実施している利用指導について簡単に紹介します。

1 新生および大学2年生に対する 図書館オリエンテーション

入学時の大学のオリエンテーションの際に図書館利用案内の時間を設けています。資料として「利用のしおり」「図書館 Map」を配布しています。



2 新入大学院生に対するオリエンテーション

歯学部の新入大学院生に対して実施しています。図書館利用方法、相互利用（学外文献の申込）や CD-ROM による文献情報検索について説明を行っています。

3 文献利用解説および実習について

学部学生が卒論、研究に備えて図書館資料を効果的に利用し、研究成果をあげることが目的として例年10月～11月頃に実施しています。昨年は医学部栄養学科2年生の学生を対象に二次資料の解説の講義1時間、ネットワーク、スタンドアローンの CD-ROM 利用技術についても実習時間（3時間）に含めて実施しました。また、学生をグループ別に分けて問題を提示し、各自が学習できるように工夫しています。

4 歯学部1年生（新生）に対する 図書館利用者ガイダンス

歯学部新入学生60人を対象にしたガイダンスを4月18日より4回シリーズで行いました。今回のガイダンスは初めての試みとして「全学共通教育」の授業の1コマとして歯学部からの要請により実施したものです。図書館職員が講師となり毎回テキストを作成し、OPACの説明時にはパソコンとプロジェクターによるデモを取り入れました。内容は①図書館は情報のアクセスポイント②文献所在調査の方法③レファレンス資料の使い方④データベースの検索、OPACの利用法についてです。終了後のアンケート調査では、実施時期やテキストの内容等については概ね好評でしたが、さらに高学年でのガイダンス実施の要望が寄せられました。

（よしだ・けいじ 分館情報サービス係長）

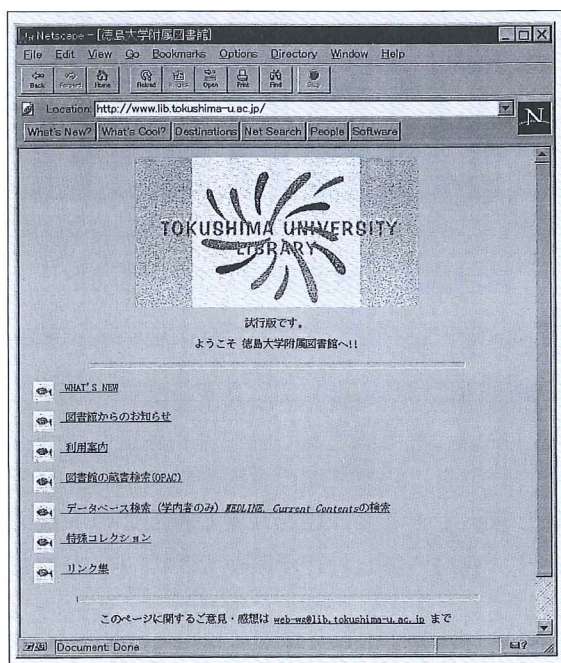
図書館ホームページ（試行版）開設

図書館では10月にホームページ（試行版）を立ち上げました。徳島大学のホームページからもリンクしています。URLは、
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/index.phtml> です。

内容のメニューは次のとおりです。

- ・「What's New」
- ・「図書館からのお知らせ」
- ・「利用案内」
- ・「図書館の蔵書検索(OPAC)」
- ・「データベース検索 (MEDLINE、Current Contents 理工系 5 部門) (学内者のみ)」
- ・「特殊コレクション」
- ・「リンク集」

OPAC (Online Public Access Catalog) は従来 www で公開していましたが、このホームページ開設により、学内外および海外から容易にアクセスできるようになりました。データベ



情報サービス課学術情報係

ース検索は今年度から UNIX 版 ERL システムにより MEDLINE 及び Current Contents 理工系 5 部門（受益者負担）で提供し、全学で活用されていますが、ホームページからアクセスができるようになりました。

MEDLINE については、トップページから“データベース検索”をクリックすると、“WebSPIRS”の画面で、無料で利用できる Free MEDLINE および NATIONAL LIBRARY OF MEDICINE にリンクしています。このインターネット版の MEDLINE は、遡及データのすべてを検索でき、カレントデータの更新頻度は weekly です。国際回線が改善されたので、検索スピードも速くなっています。お試しください。

リンク集では、国内外の図書館、国立国会図書館、学術情報センター、出版社、研究所などへリンクしています。なかでも大英図書館 www 蔵書検索サービス、NACSIS Webcat の日本全国の大学図書館の蔵書検索、国立国会図書館の最近 1 年間の納本和図書約 10 万件、約 1 万 7 千タイトルの学術雑誌（英語）の目次速報データベース UnCover は有用です。

そのほか、現在国内で入手できる約 53 万冊書籍を検索できる日本書籍総目録、日本全国の新聞・通信・放送各社へリンクする LINKS（日本新聞協会）、自社の出版雑誌のリストと検索サービスを提供する Springer-Verlag 等もあります。また、高エネルギー加速器研究機構は研究報告・文献情報の検索サービスを提供しています。

今後、利用者のご意見・ご要望を聞きながら内容を充実させていき、図書館がより一層活用されるように情報を提供していきたいと思っています。どうぞお立ち寄りください。

ちようりゆう

平日の開館時間延長

夜間主コース学生や研究者の便宜を図り、本館では、昨年9月17日から開館時間を1時間延長して21時まで試行的に実施してきました。

1時間延長することにより、夜間の利用者が1日平均38%増加しました。開館時間の延長が利用者へのサービス向上につながることから、4月より本格的な実施に踏み切りました。また、本年9月16日から、分館も21時まで開館することになりました。

ただし、学生休業中は、学生の利用が少ないので従来どおり17時に閉館しています。

'97新入生ガイダンスの実施

本館では5月から6月に4回にわたって、例年どおり新入生対象のガイダンスを実施しました。参加者は27名で、図書館利用手続き、図書館ツアー、二次資料の利用方法、分類、OPACの使い方、文献検索の仕方について、1時間程度の説明を行いました。

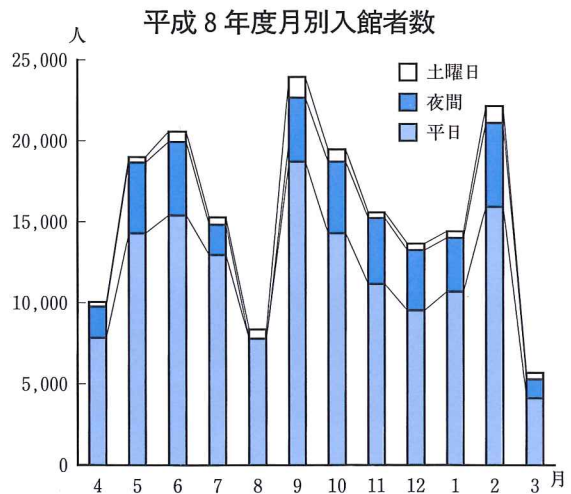
分館の実施状況については、本誌の記事を参照してください。

市民への貸出サービス好評

本学は、一般市民も、身分を証明できるもの(運転免許証や健康保険証等)があれば、いつでも図書館を利用することができます。昨年は本館92人、分館79人、計171人の利用登録がありました。また、貸出(3冊8日以内)は、学内の職員の紹介が必要ですが、本館210冊、分館177冊、計387冊の利用がありました。

図書館(本館)の利用大幅増加

平成8年度の本館の年間入館者数は、合計で約187,000人で、7年度に比べ約6,000人増加しています。月平均では15,602人、5月から6月及び9月・2月の期末試験期には2万人前後に達し、最高24,000人の利用がありました。また、時間外(夜間)開館は4,000~5,000人前後、月平均約3,200人の利用があり、土曜開館は試験期を除き、年間を通してほぼ300~600人前後の利用がありました。また、1日最多入館者数は1,906人(9月24日)を記録しています。



特別貸出(教室貸出)方式簡素化

この度、新システム運用に伴い特別貸出手続きが「図書館利用証」でできるようになりました。また、共通図書資料室に備え付けられる図書の貸出も、教室共通の「図書館利用証」を発行し貸出できるようになりました。この方式により、資料の備え付け場所がOPAC(学内の蔵書検索システム)で容易に検索でき、資料の共同利用が促進されることになりました。

MEDLINE・CC 検索講習会盛況

図書館では今年度より UNIX による MEDLINE と CC 5 部門のネットワークサービス (ERL) の提供を開始し、情報検索のより一層の高度化・充実化を図りました。それに伴い、5月27日(火)に専門のインストラクターを招き、本館と分館で計5コマの検索講習会を開催しました。

利用者からの反響は大きく、受講者は、全6学部・2研究センターから教職員・院生・学生合わせて113名の参加があり、30名を越えるコマも出るほどの盛況でした。

アンケート調査によると今後定期的開催及び講習内容充実の要望が多く寄せられました。また、パソコンの台数が少なく、参加者の実習時間がないとの参加者の声がありました。

'97附属図書館概要装い新たに刊行

このたび1997年版の附属図書館概要がデザインと内容をともに一新し、刊行されました。デザイン関係は清水國夫氏にお願いし、快くボランティアを引き受けていただいたものです。内容は図書館の整備充実計画表や、蔵書、利用サービス関係の各種統計、図書館情報システム、学術情報サービス、コレクション、出版物など、業務全般の現況や指針となる最新データが盛り込まれています。

電子メールによる文献複写(校費) 申込み急増 一常三島地区一

電子メールによる文献複写申込(校費のみ)の受付は平成8年4月よりスタートしました。8年度では申込件数の27%弱の利用率でした。9年度前半では多い月で81%、平均で55%まで急増しています。これにより、図書館の担当者も書誌的事項のタイプの手間が省け、到着通知もメールでできるようになりました。また、手書きによる申込みも用紙を改訂し、平成9年6月より印鑑を廃するなど、手続きの簡略化を図りました。

蔵本分館雑誌書庫の空調機設置

今年7月から蔵本分館の外国語雑誌書庫に空調機(冷暖房)を1台設置しました。利用者からは雑誌の調査時に快適になったと好評です。

本館サービスカウンター更新

このたび本館のサービスカウンター及びカウンターバックを更新し、入口フロアの雰囲気が一新されました。サービス業務の円滑化を図るため、情報サービス係と学術情報係のカウンターを一本化し、利用者の書誌情報調査、所在調査等に、より迅速に対応できるよう学術情報係のILL端末をカウンターに配置しました。

本学教官著作寄贈図書

寄贈者	著者名	書名	寄贈者	著者名	書名
上野 和昭	上野 和昭	日本のことばシリーズ36徳島県のことば	木戸 博	N.Katunuma	Medical aspects of proteases and protease inhibitors.
三好 和夫	三好 和夫	三好和夫教授業績集			
森田 雄介	松本 巨草	遺句集 夢	藤岡 英雄	ジェニー・ロジャーズ	おとなを教える-講師・リーダー・プランナーのための成人教育入門-
高杉 益充	Huft Barbara.B.	Physician's desk reference. '97			
高杉 益充	高杉 益充	薬剤識別コード事典 平成9年版改訂版	中堀 豊	Stephen J. McPhee	病態で学ぶ神経・免疫・遺伝学

会議



●学内

- 4. 21 第1回附属図書館運営委員会
 - ・概算要求事項について
 - ・大型コレクションの要求について
- 6. 9 第2回附属図書館運営委員会
 - ・分館長候補者の選考について
 - ・平成9年度事業計画について
- 7. 9 第1回館報編集委員会
 - ・館報No.58の発行について

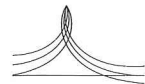
- 7. 15 第3回附属図書館運営委員会
 - ・平成9年度学生用図書購入費等の配分について
 - ・時間外開館時間の変更について
 - ・附属図書館将来計画委員会の設置について
- 7. 15 第1回附属図書館図書選定委員会
 - ・資料費の配分について
 - ・選定方法について

●学外

- 4. 24-25 第45回中国四国地区大学図書館協議会総会 (於：島根大学)
 - ・電子図書館化に対するビジョン策定について
- 4. 25 第24回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会 (於：島根大学)
 - ・電子図書館的機能の強化高度化に向けての地域的な取組みについて
 - ・第9次定員削減への対応について
- 5. 15-16 第27回日本薬学図書館協議会近畿中国四国地区協議会総会・研究会 (於：神戸学院大学)
- 5. 22-23 第68回日本医学図書館協議会総会 (於：旭川医科大学)
- 5. 25-26 第44回国立大学図書館協議会総会

- (於：京都大学)
 - ・岸本英夫博士記念基金の効果的運用方法について
 - ・国立大学図書館協議会の報告書の取り扱いについて
 - ・平成9年度国立大学図書館公開事業実施計画について
- 5. 27-28 平成9年度国立大学附属図書館事務部課長会議 (於：東京医科歯科大学)
 - ・学術行政の当面する諸課題について
 - ・電子図書館の国際的動向と今後のあるべき姿
- 9. 5 平成9年度徳島県大学図書館協会定期総会 (於：鳴門教育大学)
 - ・平成9年度事業計画について

研修



- 8. 27-29 平成9年度図書館等職員著作権実務講習会 (於：広島大学)
 - 参加者：学術情報係 横川 紀子
- 9. 3-5 第38回中国四国地区大学図書館研究集会 (於：香川大学)

- 参加者：学術情報係 横川 紀子
- 9. 9 徳島大学英会話研修
 - 参加者：分館資料情報係 小林 保教
- 9. 12 徳島大学ホームページ作成等講習会
 - 参加者：学術情報係 横川 紀子

編集後記



“お天気よすぎる独りぼっち”という山頭火の句がありますが、こんな秋の一日には読めずに積んであった本が友達になってくれます。でも、手近に何も無い…そんな時こそ図書館の出番です。あらゆる宝物が詰まっている所、何時間でも悠々と心の遊びができる所、そして何よりも独りぼっちが似合う場所。学習・調査・研究という“のため”読書はさておき、ふと手にとった本から非日常的な世界との出

会いがあったり、“ためにしない”読書からの思わぬよろこび等々、とにかく自在な独りを楽しめます。さて、このたびご覧のとおり館報「すだち」もほぼ10年ぶりに、清水國夫先生のデザインにより紙面を一新しました。本館・分館からそれぞれ発行している速報版共々ご覧ください。変転めまぐるしい昨今、図書館もより充実をめざし日々動いています。乞うご期待！（も・み）

徳島大学附属図書館報「すだち」No.58
1997年11月10日
編集館報編集委員会
発行 徳島大学附属図書館

〈表紙デザイン・レイアウト〉 清水 國 夫
〒770 徳島市南常三島町2丁目1番地
TEL (0886) 56-7584
FAX (0886) 55-9593

